

# 鎮守の森だより

NPO 法人 社叢学会ニュース

第 24 号

2006 年 11 月 8 日

## 第 2 回社叢学会インストラクター(第 期)養成講座

### 育て！ 鎮守の森を守る人材

社叢を保護管理できる人材を養成する「社叢インストラクター養成セミナー」の第 2 回( 期)講座が 9 月 16 日から 19 日までの 4 日間、大阪・奈良・京都の社殿および社叢を会場に開催されました。セミナーには関東・中部・関西・中国地方から 13 名が受講し、連日、講義と実習にとりくみました。

第 1 日目は大阪市平野区に鎮座する杭全(くまた)神社瑞鳳殿で午前 9 時 30 分に開講式を行った後、同神社の藤江正謹宮司の「市街地の鎮守の森を守るために」、上南木昭春講師(当学会理事・大阪府立大学教授)の「都市域における神社の緑の実態と継承のあり方について」と題する講義を受けました。午後は、当学会理事の糸谷正俊講師がかつて社叢調査をした各地の調査データをもとに「社叢の保全と課題」と題して講義し、その後、藤江宮司の案内で同社社叢を見学しつつ「市街地の社叢と景観」について学びました。

第 2 日目は JR 奈良駅からマイクロバスで「カシ林を社叢とする鎮守の森の環境と管理」をテーマに、当学会副理事長の菅沼孝之講師(元奈良女子大学教授)の指導のもと、奈良県内四ヶ所の社叢を視察しました。視察したのは奈良市中之庄町の天神社社叢、天理市布留町の石上神宮社叢、葛城市の笛吹神社社叢、田原本町の村屋坐弥富都比売神社社叢。

第 3 日目は京都府山城町に鎮座する和伎座天乃夫岐売神社(湧出宮)を会場に、午前中は仲谷勝彦・湧出宮宮司が同神社の社叢を整備保全した経緯を「湧出宮の森の近代史」と題して講義され、続いて菅沼孝之講師が「イチイガシ林を社叢とする鎮守の森の環境と管理」と題して講義しました。

午後は同神社の社叢に分け入り実習。まず調査区(10m×10m)を設置し、調査区内の樹木の樹種・樹高・胸高直径などを測定した後、下層植生やツル性植物を調査しました。

最終日の 4 日目は京都市左京区下鴨泉川町に鎮座する賀茂御祖神社(下鴨神社)の参集殿において、当学会理事の渡辺弘之講師(京都大学名誉教授)が「鎮守の森の動物」と題して鎮守の森の土壤に生息する動物(ミミズ・ダンゴムシ・トビムシなど)の生態や調査方法を講義し、午後は午前中の講義にもとづいて土壤動物の採集と観察を実践しました。引き続き、今講座最後の講義を上田正昭理事長(京都大学名誉教授)が「鎮守の森の伝統と課題」と題し、鎮守の語源から神との関係、神社の歴史などを講義し全日程を終えました。続いての修了式では上田理事長より受講生に修了証書が手渡されました。この修了式には賀茂御祖神社の新木直人宮司も臨席され、祝辞とともに同神社の社叢「糺の森」の変遷について語られました。



実習をする受講生(糺の森にて)

# 近江の式内社について ~ 日野町を中心として ~

講師 川北 靖之 (京都産業大学教授)

コメンタ 井上 満郎 (京都産業大学教授・当学会理事)

## 1. 式内社とは何か

式内社とは延喜式に登載された神社のこと。延喜式とは、延喜 5 年 (905) から延長 5 年 (927) にかけて編纂された法令集で、ほぼ完全な形で残る唯一のものである。全 50 巻のうち冒頭の 10 巻は神祇式という神祇官関係の法令の集成で、末尾 2 巻が全国の主要な神社名を列挙した「神名式」。中世以来「延喜式神名帳」とも称せられ重んじられてきた。全国の 2,861 社、3,132 座の神社が列挙され、これらを式内社と称している。

## 2. 近江の式内社

近江国には式内社が 142 社、155 座あり、祭神の数を表す「座」で比較すると、大和 (286)、伊勢 (253)、出雲 (187) に次いで第 4 位を占めており、全国的に見ても突出した数であるといえる。式内社のなかで最高の社格を表す名神大社が、近江国内では、滋賀郡小野神社・日吉神社、栗田郡佐久奈度神社・建部神社、甲賀郡川田神社、野洲郡御上神社・兵主神社、蒲生郡奥津嶋神社、伊香郡伊香具神社、高島郡水尾神社の 10 社を数える。

近江国内の式内社の分布を見ると、北部の伊香・高島の 2 郡で全体の半数を占めているが、両郡が交通・政治上の重要地であったこと、息長氏をはじめとする古代豪族が多数存在していたことなどがその理由として指摘されている。

## 3. 日野の式内社

大屋神社・長寸神社・比都佐神社・綿向神社

『延喜式』蒲生郡の項に登載されているのは、大嶋神社・奥石神社・石部神社・大屋神社・比都佐神社・長寸神社・沙沙貴神社・菅田神社・馬見岡神社 (2 座)・奥津嶋神社の 10 社 11 座で、名神大社である奥津嶋神社を除き、いずれも小社である。このうち現存する神社で式内社として比定されるものは、大屋神社・比都佐神社・長寸神社・馬見岡綿向神社の 4 社だが、長寸神社と馬見岡神社については、町外にも比定される神社 (論社) がある。

大屋神社: 大字杉に鎮座する神社で、祭神は五十猛命。境内社の若宮神社に大屋彦命を、また奥津神社に大屋姫命を祀る。本社は「大屋神社」に比定されているが、嘉吉元年 (1441) の史料によると、大屋神は長寸郷の杉廬庄に鎮座し、社僧二人・神人九人が奉仕していたという。また、長寸神 (長寸神社)・長寸下神 (賀川神社)・室木神 (諸木神社)・藤斬神 (永源寺藤切神社) とともに、栗太郡佐久奈度神社 (大津市) の供祭料所の神として、天応元年 (781) に右大臣中臣清麿によって勧請されたと伝えられ、8 世紀後半頃に東桜谷

地区に開発の手が入ったことを示している。

長寸神社: 大字中之郷に鎮座する神社で、祭神は事代主命と天照荒魂神。かつては「山崎宮」と称しており、社僧 2 人・神人 6 人・神楽大夫 1 人が神社に奉仕していたとされている。創祀については、光仁天皇の天応元年 (781) に右大臣中臣清麿が勧請したと伝えられている。

比都佐神社: 大字十禅寺に鎮座する神社で、祭神は日子火々出見尊・天津日子火瓊々杵尊・木花開耶姫尊・武甕槌神・天太玉神・大己貴神・天兒屋根神・猿田彦神の 9 座。創立年代は未詳だが、応永 30 年 (1423) の記録に「秘佐十禅師之御社」と記されていることから古社であることは明らかだろう。

綿向神社: 大字村井に鎮座する神社で、天穂日命・天夷鳥命・武三熊大人命の 3 神を祀る。このうち天穂日命は出雲国造らの祖神で、武三熊大人命は出雲系統の神。このほか日野町内には、天神社 (小野) の少名彦命や長寸神社の事代主命、椎植神社 (上野田) の武三熊大人命など出雲系統の神々が多く祀られており、この地に出雲系の人々が移住して繁栄したことを物語っている。

本社は、式内社の「馬見岡神社」に比定されているが、近江八幡市馬淵町に鎮座する馬見岡神社も論社の一つとされている。馬見岡綿向神社は、欽明天皇 6 年 (545) に「大嵩社」として「錦嶽」に創祀されたといわれる。「錦嶽」とは、綿向山の古称で、「大嶽社」とは嵩神社 (北畑) のこと。古来より現在に至るまで 21 年毎に改築することが例となっている。綿向山上の社が式年遷宮されたことを伝える史料として、永正 13 年 (1516) 年の棟札が現存しており、少なくとも 500 年近い歴史を有することがわかる。「天武天皇白鳳甲申」に「篠谷 (出雲川上流部分)」に社が造営されたとの記述がある史料もあり、天武朝という神祇崇敬が重視された時代に本社が山上から勧請されて日野谷の平野部に社殿が造営されたと考えられる。

## 4. おわりに 極めて敬神の念の厚い風土

大嘗祭は天皇が即位後、初めて行う新嘗祭のことだが、その大嘗祭に神饌料として米を献上する斎田を悠紀・主基といい、宇多天皇 (888) 以来、幕末 (1848) まで、常に亀卜により近江国に定められてきた。近江国は、最も重要な宮中祭祀である大嘗祭の悠紀の国として千年近くその役割を務めたことになる。それは、近江の国の人々が、その豊かな稔りに感謝して、敬神の念を持ち続けたからだろう。

## 戸隠神社について

講師 藤井 茂信(戸隠神社宮司)  
コメンター 林 進(岐阜大学名誉教授・社叢学会副理事長)

長蛇の列で人気の蕎麦店を横目に、何気なく入った宿坊の食堂で美味しい蕎麦を堪能した後、紅葉が真っ盛りの戸隠神社へ向かった。暖房の入った社務所内では、参加者18名が藤井宮司のお話を拝聴し、中部支部恒例の正式参拝の後、車に分乗して奥社入口に移動し、権禰宜の水野氏の案内で徳川時代の初めに植えられた約200本の樹齢四百年の杉並木の神秘的な雰囲気の中、数々の遺跡が残る奥社までの歴史と自然散策を満喫した。

研究会会場となった中社(ちゅうしゃ)は標高1200m。今年は暖かくて紅葉が遅れて見頃と重なった。例年この時期の戸隠村のもみじ祭は10km程下った場所で行われるそうで、新潟県との県境まで車で20分。10月終りには降雪し、翌年5月中旬まで雪があり、5月14日の春の祈年祭の行事が雪で出来ない時もある程の豪雪地帯である。

## 戸隠神社について

戸隠神社は、天照大神が再び岩戸に隠れない様にと天手力雄(あめのたじからお)命が「天の岩戸」を隠したとされる戸隠山の麓に鎮座し、[奥社](#)・[中社](#)・[宝光社](#)・[九頭龍社](#)・[日\(火\)之御子社](#)の五社の総称である。それぞれの社には「天の岩戸」伝説に関係のある神々が祀られており、奥社には天手力雄命、中社には岩戸に隠れた天照大神を神楽で誘い出す案を考えた知恵の神様である天思兼(あめのおもいかね)命、[日\(火\)之御子社](#)には妖艶な踊りで盛り上げた天鈿女(あめのうずめ)命、[宝光社](#)には天思兼命の御子で旧事紀(くじき)に記載された天表春(あめのうわはる)命。九頭龍社のみが水を司る農耕の神様の九頭龍大神を祀り、奥社社殿の脇にある。戸隠信仰の基は九頭龍大神であるが、神社の本流は天照系であるので脇に置かれている。

九頭龍社は水の神で、雨乞い神事を行っており、現在は村の観光協会がスキー場のための「雪乞い」も行っている。下流の種池から木樽で水を汲んで、神前で水を振り、樽を地元を持ち帰って置いた場所に雨が降るといふ神事で、地元に戻るまで樽を保持し続けなければならない苦行だそうである。

## 戦国時代の荒廃と明治の徹底的な廃仏毀釈

神仏習合時代は、天台宗の戸隠山顕光寺と称して奥院・中院など「戸隠十三谷三千坊」と呼ばれ

栄えた。戦国時代に上杉・武田の争いに巻き込まれて壊滅的打撃を受け衰退し、1560年からの30年間は30km離れた小川村に疎開した時代もあった。その後、上杉景勝が復興し、江戸時代になって徳川家康の庇護を受けて東叡山寛永寺の末寺となり、別当500石・各末社300石・神仏混交時代から神社であった[日\(火\)之御子社](#)の神官200石、計千石の扶持があった。善光寺と並んで天台宗の長野五山の一つであったが、明治の徹底的な廃仏毀釈で顕光寺に伝わったものはほとんど散逸した。宗僧は還俗して神官となり、最後の宗僧となった家系が神職を継いでいる。特にこの地域では神仏分離が徹底して行われ、明治元年12月1日は午前中の参拝が仏式で、午後から神式に変わった。

宮司は世襲ではなく、現在の宿坊を経営する36軒の聚長(しゅうちょう)から選ばれ、総代も聚長が務め、神職も聚長から出ている。36軒の聚長は「戸隠講」も束ねており、神社庁に登録された全国39社の戸隠神社も分担している。戸隠神社のお札・御神籤・種占い(種兆)は評判で、特に農家は「種占い」を頼りにしている。もちろんやり方は秘伝である。

## 天然記念物「戸隠神社奥社社叢」

境内地は約78ha。奥社は参道の左右60間(約100m)が境内地で約50ha。奥社入口の大鳥居の前を流れる逆(さかさ)川には川真珠貝(淡水真珠)があり、それより奥は広大な湿地が維持されている。一帯は「戸隠神社信仰遺跡」として1979年から史跡指定されており、さらに奥の「随入門」の奥は杉並木も含めて古くから伐採を禁じることによってミズナラ・ハルニレなどを中心とする原始林の社叢が維持された「戸隠神社奥社社叢」として1973年から県の天然記念物に指定されている。どちらも改変には県教育委員会の許可が必要で、指定解除はできない。

霧が漂う夕暮れ時に辿り着いた奥社は、かつての優美な社殿が雪崩で崩壊し、頑丈な鉄筋コンクリート造になっていた。電気がなくて、やがて漆黒の闇に包まれるという社叢を後にし、宿坊で美味しい夕食と蕎麦。翌朝は晴天で、紅葉に聳え立つ戸隠山は見事であった。

文責：岡村 穰

今事業年度も半分が過ぎました。今年度の会費をまだ頂戴していない皆さまには振込用紙を同封いたしました。社叢学会は会費で運営しております。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福岡県支部設立を記念して12月9日(土)に市民講演会を下記の通り開催いたします。奮ってご参加ください。

- 平成14年より事務局長を務めてこられました岩野陽一氏が9月末日をもって引退されました。今後、事務局は藤岡が預かりすることになりました。引き続きよろしく願い申し上げます。

観光シーズン。相変わらず“修学旅行は京都！”なのかしら。事務所界限には修学旅行用旅館がいくつああって、生態観察には格好のロケーション！

その1 ニキビ面の男の子があぶらとり紙の袋をいくつも抱えて…。おねーちゃんとかママとかに頼まれたんだろーなー。まさか自分用！？

その2 夕方、門限直前か、えらい短いスカートの制服軍団が走ってくる！リーダーらしきジョシコーサー曰く“急いでね、遅れるよ、あ、それから入る前にスカートおろしてね”。おおい。(藤岡 郁)

### 福岡県支部設立記念市民講座

日時 : 2006年12月9日(土) 14:00~  
 場所 : 太宰府天満宮文華殿 2階 宝満の間  
 講師 : 矢幡 久(社叢学会理事・九州大学農学部教授・熱帯農学研究センター所長)  
 テーマ : 天神の杜(もり)の過去・現在・未来  
 講師 : 森 弘子(九州大学大学院人間環境学博士課程修了)  
 テーマ : 応神天皇生誕の地、宇美八幡宮の社叢  
 入場料 : 無料  
 問合せ : 092-922-8225 福岡県支部事務局: 味酒(みさけ)

### 次回予告(第23回関西定例研究会)

日時 : 2006年11月25日(土) 13:30~15:30  
 場所 : 伏見稲荷大社儀式殿(京都市伏見区深草藪之内町68 075-641-7331)  
 テーマ : 信仰が支えた照葉樹林、世界遺産春日山原始林をシカが喰う  
 講師 : 前迫 ゆり(奈良佐保短期大学教授)  
 コメンター : 山倉 拓夫(社叢学会理事・大阪市立大学教授)

### 締切り間近!! 原稿募集!

『社叢学研究』(第5号)への投稿: 従来どおり論文、研究ノート、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)のほかに、会員通信「鎮守の森の活動報告」を募集します(下記参照)。今年度の投稿締切りは、いずれも11月30日(木)必着です。

「鎮守の森の活動報告」: 祭り、音楽会、問題点など。B5判1200字。横書き。手書き、ワープロ、イラスト、写真入り、いずれも可。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区蛸薬師通堺町西入雁金町373番地  
 みよひビル303号 TEL075-212-2973 FAX 075-212-2916  
 URL <http://www2.odn.ne.jp/shasou/> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)  
 社叢学会関西支部 〒101-0031 千代田区東神田1-8-11 森波ビル2F  
 TEL03-5875-8423 FAX 03-5875-8321 E-Mail [shasou@macrovision.co.jp](mailto:shasou@macrovision.co.jp)